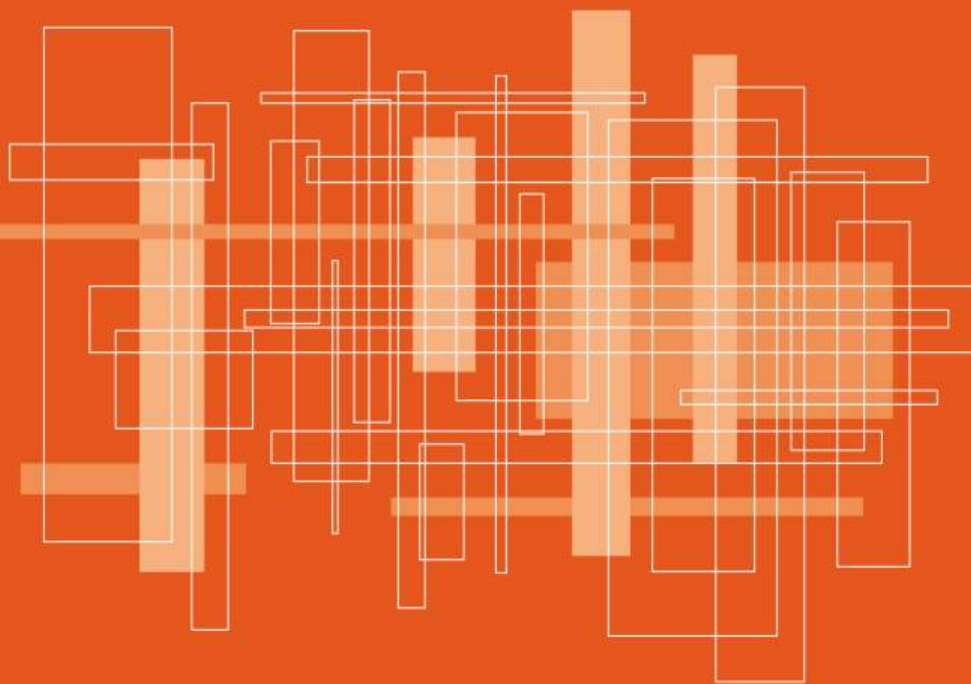


# ORT 友の会 会報

■ BI-DIGITAL O-RING TEST BULLETIN ■



特集

第19回 日本バイ・デジタルOーリングテスト医学会

**2009**  
**vol.18**

ORT友の会

## ●○○ ○ーリングテスト症例短報 ●○○

### 乳癌の腫瘍マーカーが BDORT 治療により低下し、経過が良好な症例

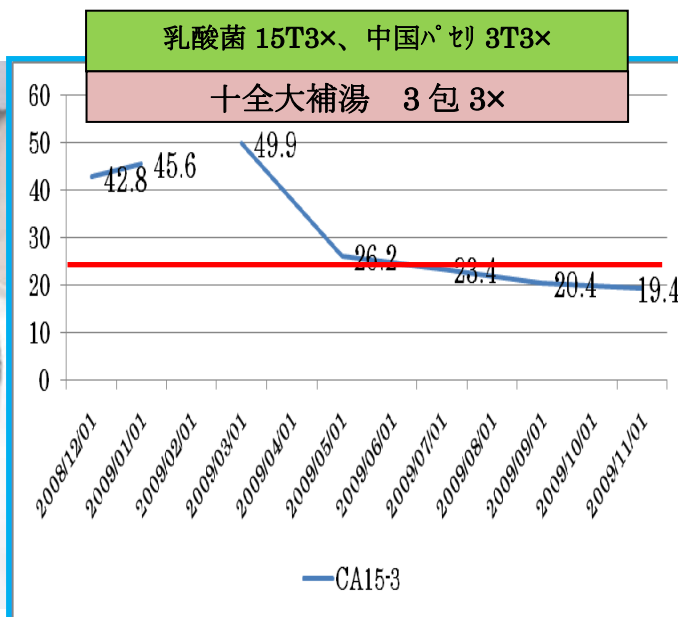
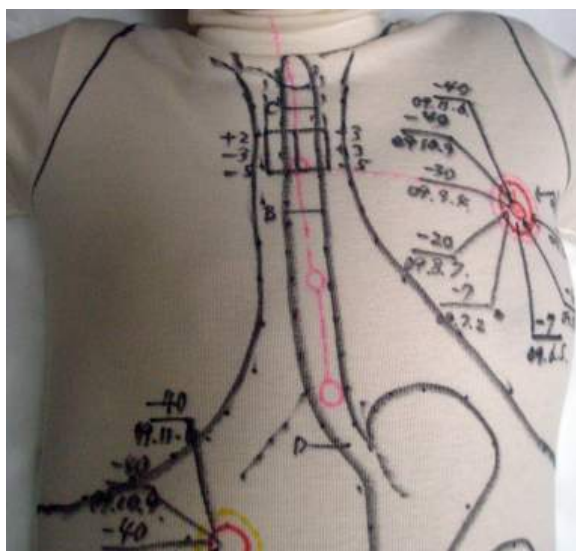
(下津浦内科医院)

#### Short Report of the Clinical Case by using Bi-Digital O-Ring Test

A Case Report of Breast Cancer whose tumor marker CA15-3 was prominently decreased and improved according to Guidance by using Bi-Digital O-Ring Test.(Shimotsuura Clinic)

患者：50歳代 女性

疾患名：乳癌術後



乳癌術後で再発予防のために下津浦内科医院に通院中の患者さんで、乳癌の腫瘍マーカーである CA15-3 が 42.8U/ml→49.9 U/ml (3月) と上昇してきたため、オーリングテストで生活全般を見直した。健康食品の ORT-乳酸菌 (エンテロコッカス・フェカリス菌)、シロトロの他に、ツムラ十全大補湯 7.5g3xが処方された。2 カ月後の 5 月には、CA15-3 が 26.2 U/ml と正常値内に低下し、現在はさらに 19.4 U/ml まで低下して、良好な症例です。

**Dr のコメント** [バイ・デジタルオーリングテストによる治療] この患者さんに有効と考えられる治療薬をスタンダード医学、東洋医学、民間の代替医学全てを考慮して検索し、BDORT による Virtual Drug Effect Test を行い、有効とされる薬剤を選択しました。CA15-3 が正常領域まで、低下して良好な症例です。本人が、毎月 1 回、金曜日の午後と土曜日の午前中の宗茂先生の気功を受けて、元気になるのを楽しみにしてあり、好きな登山をしたり、前向きにリラックスして闘病することで経過が良いと思われます。

## 特集 第19回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会

平成21年7月4日～5日（東京大学山上会館）

毎年恒例の日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会も今年で19目を迎え、東京大学山上会館にて大に開催された。今年のテーマは「Bi-Digital O-Ring Test の最新の歩と Bi-Digital O-Ring Test の Modified Technique の長所と欠点」



○  
回  
盛  
進  
と

して、正しい情報・技術の共有化や、Bi-Digital O-Ring Test（以下BDORT）の科学性を高め、社会的評価を高めることを目指し、多くの先生方がご参加の基、活発な議論が交わされた。また、会員の先生方によるBDORTの実演があり、その技術の長所と短所を検討するという試みも行われた。

### BDORT 創始者 大村恵昭先生 開会挨拶



20世紀の医学は、誰でも同じ平均的な治療を受ける医学でしたが、21世紀の医学は個人の病気に合わせた治療をすることが正しい方向だと思っています。しかし最近では日本の政府もアメリカの政府もその方向とは全く反対へ行っており大変悲しいことだと思います。特に Bi-Digital O-Ring Test（以下BDORT）は21世紀の現代において、一人一人の病気の特有问题を解決するのに、大変有効な方法です。

現代こそBDORTの必要性が議論されるべきはずなのに、現在の医療制度ではBDORTでは混合診療が出来ないなどの制約があるため、BDORTが大いに活用できない状態にあります。そのような現状ではありますが、会員の先生方を中心に研究を進めていただき、BDORTがもっと発展してゆくことを願っております。

## バイ・デジタルオーリングテストのエビデンス

出口一樹先生

第 19 回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会会長、  
岐阜県西濃保健所長

Establishing Evidence in Support of the Bi-Digital O-Ring Test  
Kazuki Deguchi M.D., Ph.D., F.I.C.A.E., Cert. ORT-MD(3Dan)  
President of the 19th Annual Meeting on the Bi-Digital O-Ring Test,  
Director of the Gifu prefectural Seino Public Health Center



私は 20 年間脳神経外科医として数千例の手術を行ってまいりました。その中で悪性脳腫瘍の手術、脳出血の手術などを行う際にいつも、「本当にこの治療は効果があるのか」と悩んでおりました。その反省を含め、10 年間は保健所にて、疫学調査等をおこないながら、Bi-Digital O-Ring Test (以下 BDORT) も含めて様々な研究を行ってまいりました。今日は「疫学」を用いて BDORT にどのように科学性を持たせるかについてお話したいと思います。

### 1. はじめに

医学は「ヒト」の疾病を治療することを目的として発達してきた学問です。血液検査や組織検査などの臨床検査は、治療の方針を決定するのに重要な位置を占めており、近年の科学テクノロジーの発達とともに多くの検査法が開発され実用化されています。そして、医師はこれらの検査に基づいて診断し、患者の治療方針を決めていきます。しかし、検査結果を正しく理解して、診断治療を行うことは容易ではありません。例えば、ランセットという有名な医学雑誌には、日本と英国の医師が同じ胃がんの病理標本の診断を行ったところ、ほとんど一致しなかったという報告があります。また、医薬品の効果についても、科学的に不適切な検定方法で検討され、それが認可されているという事実もあります。このことは、医学が実験科学の一つとして研究されてはいますが、「ヒト」の症状は個体差が大きく、しかも生体反応は予測が困難なことが多いことにより科学的検討が困難であるからです。この問題を解決する方法として、「疫学」があり、研究デザインやデータ収集・解析などの方法を研究する学問として欧米で発達してきました。しかし、日本の医学界においては、その重要性が十分に認識されていないのが現状です。

BDORT を用いると、疾病の原因の多くはウイルスや細菌の感染症、化学物質や金属の蓄積、電磁場の影響が関与していることが判明します。更に治療に有効な医薬品やその量を測ることが可能であるため、大変な治療効果を発揮します。このように BDORT の基本は、身体の異常が何処にどの程度あり、その治療にはどの薬がどれだけ必要かを「測定」することです。これに対して科学的説明をしていくことが重要です。「科学」とは何かについて辞書で調べるとその説明は様々で、その定義は辞書の

数ほどあります。「科学」として考えられるのは、一定の条件の下では、何時でも、何処でも、誰が行ってもどこでやってもその事象を再現できることが「必要」条件だと思います。ところが臨床医学に関しては、患者さんは一人一人の病態が異なり、臨床医は個々の個人的経験から診断と治療を行うため、診断と治療に再現性を持たせることは大変困難です。このような経験的真理と呼ばれる事象に科学性を持たせる学問が「疫学」です。

## 2. 精度管理

臨床検査が有効性を保持するためには、その精度を管理することが必須です。精度管理を行う対象は主に3つあります。

1つ目は「操作の誤り」です。BDORTの例では、指の引き方が間違っている、三条件が整っていないなどが挙げられます。

2つ目は「精密度（偶然誤差）」です。これは、温度・湿度・体調・風向きなどのよる誤差です。

3つ目は、「正確度（系統誤差）」です。例えばBDORTで用いる基準参照物質のプレパラートの内容量にばらつきがあると、それで計測した値は一定の誤差が生じてきます。

日常の検査を行う中で、その誤差が臨床的に許容される範囲にあることを常に確認し、異常な誤差が出現した場合、その原因を検討し改善していかなければなりません。

## 3. 医学研究デザイン

医学研究では、治療効果あるいは病因のリスクを評価することが重要な課題です。その方法としては、観察的研究と実験的研究に分けられます。観察的研究とは、例えばタバコを吸う人・吸わない人を二群に分けて観察し、最終的肺がんの発生率を評価する方法です。その代表的なものとして、コホート研究、症例対照研究、横断的研究があります。実験的研究とは、研究対象になる人（患者）にある特定の治療を行うなど実際に人に操作を加える方法です。この最も重要な方法は、無作為化比較試験です。無作為化比較試験では、「精密度（偶然誤差）」と「正確度（系統誤差）」を回避するために、治療を各対照群に割り付けることにより評価を行います。研究のエビデンスにはレベルがありますが、無作為化比較試験とそのメタアナリシスが最上位に位置しています。

BDORTという優れた手法をもっと広く世に広めてゆく為には、無作為化比較試験を用いてエビデンスを構築し、BDORTの標準治療（ガイドライン）を作っていく必要があります。

## BDORTによる異常経絡の診断と治療について

岡宗由 先生

医療法人敬和会 大分岡病院

Diagnosis & treatment of abnormal Meridian by Bi-Digital O-Ring Test

Muneyosi Oka M.D., Ph.D., F.I.C.A.E., Cert .ORT-MD(3Dan)

(「Bi-Digital O-Ring Test の最新の進歩と Bi-Digital O-Ring Test の Modified Technique の長所と欠点」 シンポジウムより)



私は、経絡治療に始めて出会ったのは今から 50 数年前の、開業から 2 年くらいたった頃で、私が直せなかった腰痛の患者さんを鍼灸師が 2 日間で直してしまいました。私は、注射と内服薬で治療しましたが、あまり効果がありませんでした。それをみて非常にショックを受け、東洋医学を勉強するようになりました。しかし、勉強しても中々よく分からず悩んでいたときに、この Bi-Digital O-Ring Test に出会い、私なりに鍼灸を理解できるようになりました。今日は、私が日常やっております治療を紹介いたします。経絡の異常の診断法としては、古くより六部定位の脈診と、五行の色体表による診断方法が使用されています。しかし、客観性、再現性と有効性の立場から検討した場合、なお多くの課題や問題点が残されているように思われます。しかし、これに BDORT 法を用いたところ、これらの問題点を解決し、優れた効果が得られることが分かったので、実技と共にこれについて報告したいと思います。

六部定位の脈診と、五行の色体表による診断治療法と BDORT の応用の実例

### I) 六部定位脈診

左右の手腕の脈診部には、陽経と陰経の代表点（穴）がそれぞれ配置されている。経脈(穴)は磁性的な性質を持っているが、特に異常（病的）な場合は、磁石の N・S に対し、それぞれ鋭敏な反応を示す。故にこれにより異常な経穴経脈を知ることができる。

### II) 新しく作られた五行の色体表による診断

組織標本とマンセルの色彩図表との共鳴により、新しく作られた色体表。この色体表で(I)の六部定位脈診で選ばれた経脈の異常を再チェックする。異常経脈部では BDORT は開くのに対し、その母穴と相克穴は、強く閉じる。

### III) 異常経絡の治療

異常経脈が決まれば、その経脈の上流の S の反応点に S（寫）の磁性質を持った皮内鍼、その下流の N（補）の反応点に N を貼付。これにより、うっ滞していた経絡のエネルギーは、S→N の方向に流注し、経絡の異常と症状は、即時的に解消される。

### IV) 治療後の効果の確認

置鍼により、その経絡の異常が解除されたことを常に確認する。経絡上又は井穴部の反応を **BDORT** でチェックする。

V) 治療前に存在していた生体の生化学的数値の異常が改善されたことを **BDORT** により確認する。

私は現在までに様々な症例を見てきました。その中で判かったことを数例あげてみます。まず、ガンには色々なタイプがありますが、ごく早期で見つければ、高い確率で助かります。下津浦先生が発表されておられますが、MRI などで見つかる大きさになる 10 年以上前から、**BDORT** では、共鳴反応により、ガン遺伝子の共鳴の兆候が陽性に現れます。それは、現代医学では見つけることが出来ませんが、**BDORT** を用いることで、始めて診断と治療が出来ますので、その臨床的な効果をいつも実感しています。

また、統合失調症、うつ病などは欧米と異なり、日本では、まさに薬漬けの状態です。その治療薬（ハロペリドール）を **BDORT** で調べますと、常に非常に強い共鳴反応を示し、これによりその必要性を知ることができます。

経絡治療は生物が本来所有する自然治癒力（生命エネルギー）を改善し補強するもので、非常に強力な治療法です。**BDORT** は、現代医学を批判し、これと対立するものではなく、むしろ、その効果を補強し前進させるものだと考えています。東洋医学では、肝心のことは表には出さない（口伝）ということが多々あります。臨床医にとっては、**BDORT** は診断と治療上、客観性と再現性が確認され、その治療がより効果的となる、優れた臨床的な補強手段となりうると考えています。また、多剤投与や薬害の防止の上でも効果的であり、医療費についても、効率的な節約が可能です。**BDORT** による正確な経絡治療は、生体が本来所有する生命エネルギー（自然治癒力）を回復又は増強するものであり、健康の増進や疾病の治癒に非常に有効な手段であると思います。

物理学はすでに量子力学の世界に入っています。医学もこの分野を取り入れることで、飛躍的に進歩すると思っています。その橋渡しをするのが **BDORT** ではないかと考えています。



## <連載コラム>O-リングテストのABC

日本バイ・デジタルO-リングテスト協会副会長 下津浦 康裕  
医療法人 下津浦内科医院 院長 久留米市東町 496 TEL:0942-36-0620

患者さんに、O-リングテストで適合する薬剤と適量を合わせても、なかなか効果が出ないことがあります。そういう時に、患者さんに電磁波を含めて、衣食住に関して、お尋ねし、注意・指導を行っています。

### 1. 電磁波について

最初に、お部屋の見取り図を書いていただき、電磁波の危険性について説明します。寝室に電化製品が置いていないか質問すると、何もないとおっしゃられるのですが、実は、電気毛布や電気カーペットを使用していたり、またはそこに寝ている方、IHクッキングを使用している方が意外に多いのです。その様な方は、電磁波の影響を受けつづけていると、癌細胞の成長を促進させることになると説明します。中には、自分の寝室には、電化製品が何もないという方でも、寝室が2階で1階の蛍光灯等の電化製品の影響を受けていたというケースがあるので、注意が必要です。

### 2. 食べ物や飲み物についてのチェックポイント

- 雑穀米・玄米を食べている（発芽玄米は特に危険）
- コーヒー・紅茶をよく飲む
- ルイボ스티ーをよく飲む
- 杜仲茶・麦茶をよく飲む
- 人工甘味料の入った飲み物・ガム等（ダイエット飲料・アスパルテム・アセスルファムK）
- 市販の野菜ジュースを飲む
- 酒を飲む
- タバコを吸う
- とうがらし等の刺激物全般をよく食べる
- 塩分の多いものをよく食べる
- 冷たいもの（体を冷やすもの）をよく食べる
- ミカン・柿等のビタミンCを多く含む果物をよく食べる
- 油物・揚げ物をよく食べる
- ダイエットのためのサプリメントをよく食べる
- メラミン等が入っている食品

上記にあてはまるようなことをチェックし、O-リングテストで適量と薬剤相互作用を調べたサプリメント等の効果を阻害する、ブレーキになるようなものを避けることが非常に大切です。

また、以下の例のようにできるだけO-リングテストでOKのものを食べたり、飲んだりするようにすると良いでしょう。

- ・O-リングテストでOKなお茶は緑茶、一般的に寿司店の煎茶はOK
- ・レッドワイン、養命酒は適量であればOK
- ・果物でOKなものは、赤いリンゴ、黄色いバナナ、パイナップル、マンゴー、パパイヤ等
- ・サケ、マグロ、ウナギ、ブリ、サバ、イワシ、サンマ、ウニ等はOK
- ・ヒジキ、メカブ等はOK

### 3. 治療日誌をつける

治療効果が上がって、経過の良い患者さんほど治療経過（腫瘍マーカー等の血液検査の結果のグラフをつけたり、サプリメントの適量やコンビネーション等）を記録していて、何が治療効果に影響を及ぼすかによく気がついておられます。

以上のようなことに気をつけながら、健康で元気な生活を続けることが大切です。

## <連載>仙人伝説

林原グループ代表 林原健

### プロフィール

1942年（昭和17年）岡山県生まれ。慶應義塾大学法学部卒。

1961年に㈱林原の代表取締役役に就任し、研究開発型企业への転換を図る。

現在林原グループ 13社のうち 5社の代表取締役を務める。

1997年藍綬褒章受章

大村先生と知り合いになってから、もう10年以上たつたかと思われます。最初はソニーの故・井深会長からの間接的なご紹介でした。今日までの先生のご研究の成果には驚くばかりですし、研究一筋に努力されている先生のお姿は本当に素晴らしいものです。

古い書物をみていますと、オーリングテストが原点ともいえるような理論に興味をもち、しかも再現性があるためこれは科学の対象にすべきものだと主張しながら、周囲の学者からは冷たい目で見られ埋没していった何人かの人達を見出すことができます。しかし医学の分野に限定し、指を利用して診察と治療に利用した方は大村先生が初めてであり、先生が大変な先見の明をお持ちになっていたと私は思います。オーリングテストをもし他の方面に利用していたなら、これまでの人達と同じように歴史の中に埋没してしまっていたのではないかと思います。

私自身はこの技術は発見の手段として優れており、そして最も大切なことは医学の分野以外にみだりに利用すべきでないと思っています。昔から七生報国という言葉がありますが、大村先生は過去の偉大な先人達の生まれ変わりにより、この度ようやく世界で認められるようになったのではないかと、また今後は行き詰った医療の打開のためにオーリングテストが一層大事になると信じています。

先生や私共の生きているうちにそのような状態になることを心から願っていますし、私は必ずくると思っています。それまではどうか先生に元気でいていただきたいと心より願っています。

## 日本 BDORT 協会ニュース

平成 22 年 1 月からの予定

※元気セミナー 開催予定<参加費無料> 12 時 30 分から 13 時 30 分

場所：ORT 生命科学研究所 〒830-0032 福岡県久留米市東町 496

日時：平成 22 年 2 月 6 日 (土) 3 月 6 日 (土) 4 月 3 日 (土) 5 月 1 日 (土) 6 月 5 日 (土)  
7 月 3 日 (土) 8 月 7 日 (土) 9 月 4 日 (土) 10 月 2 日 (土) 11 月 6 日 (土) 12 月 4 日 (土)

※ 参加資格：ORT 友の会会員 (要予約：FAX:0942(36)1961 or seimei@bdort.net)

※ 自分の身を守るためにオーリングテストを御家族で、どのように活用したり、身近な疾病について患者様を対象にわかりやすく説明していきます。

◎大村恵昭先生主催のニューヨークでの 3 日間の講習会の予定

平成 22 年 1 月 22 日 (金) ~ 24 日 (日) 2 月 19 日 (金) ~ 21 日 (日) 3 月 12 日 (金) ~ 14 日 (日)

4 月 2 日 (金) ~ 4 日 (日) 5 月 14 日 (金) ~ 16 日 (日) 6 月 11 日 (金) ~ 13 日 (日)

NY のマンハッタンにある Holiday inn Midtown で毎月行われています。(参加すると認定試験に必要な時間が加算されます。) Holiday Inn Midtown, 440 West 57th Street, NYC (between 9th & 10th Ave); (<http://www.icaet.org/index.html>)

◎ 4 月セミナー 久留米セミナー・認定試験 2009 年 4 月 10 日 (土) ~ 13 日 (火)

対象：日本 BDORT 医学会会員 会場：ORT 生命科学研究所

地方セミナー 2009 年 4 月 17 日 (土) ~ 18 日 (日)

◎ 第 10 回バイ・デジタルオーリングテスト国際シンポジウム (第 20 回日本バイ・デジタルオーリングテスト医学会) 平成 22 年 7 月 16 日 (金) ~ 19 日 (月)

会場：早稲田大学国際会議場 対象：日本 BDORT 協会会員 (医師・歯科医師・獣医師・鍼灸師・薬剤師・看護師)、ORT 関連学会会員、ORT 友の会会員

◎ 市民公開講座 平成 22 年 7 月 参加資格：ORT 友の会会員

### ORT 友の会会員の皆様へ

ORT 協会会員の先生の認定医施設は、ホームページに掲載しています。(URL: <http://www.bdort.net/as/nintei.htm>) また、ORT 友の会会報の全内容も掲載しております。

お問い合わせ先：日本バイ・デジタルオーリングテスト協会

〒830-0032 福岡県久留米市東町 496 TEL:0942-38-4181 FAX:0942-37-4131

E-mail: [tomo@bdort.net](mailto:tomo@bdort.net) URL:<友の会> <http://www.bdort.net/fr/index.htm>



ご購入については、かかりつけの協会員の先生方にご相談下さい。

業務内容 ● ORT 認定健康食品開発・研究

- ORT 研究用教材開発
- 過去の市民公開講座の DVD も販売中。

◎新商品の紹介



#### ニュートライザー

● 携帯電話やパソコン、テレビ、電気掃除機、電子レンジ等に貼るシール

● 価格：3600 円(税込) 3 枚組



#### 電場チェッカー New (高感度)

● 電場をキャッチしたら、ブザーと赤いランプが点滅します。従来のものよりオーリングテストの結果に近く、高感度です。電池の交換も簡単です。寝室や居間の電磁波環境をチェックしてみてください。 ● 価格：4200 円(税込)

## ニューヨーク国際学会参加体験記

New York の Columbia 大学で 2009 年 10 月 31 日～11 月 3 日に開催された第 25 回国際鍼・電気治療学会に参加された先生方の体験記を紹介致します。

### 1. 田中俊男先生（東洋鍼灸院院長、東京）

以前から、一度は参加させて戴きたいと願っていた New York での学会ですが、コロンビア大学での開催は最後になるかもしれないと聞き、何とか仕事を調整して学会に臨みました。参加させて戴く以上は発表もしようと、色々と思案しているうちに、最近急増している鬱病に関する内容をまとめ、知りあいの方に頼み英文に作り直していただきました。ふと気がつくと、「プレゼンも英語？」と戸惑いながら、どう話したらいいかも指導を戴き、出発の 2 週間ほど前には準備も整い、あとは日程を待つだけとなりました。New York マラソンやハロウィーンも重なる時期、航空券や宿の心配もしましたが、いずれも何とかなりました。New York の地下鉄は乗ったことがなく不安でしたので、大学まで歩いて行ける宿を取りましたが、これが行ってみてびっくり。一部屋を 3-4 人でシェアする安宿。パスポートや大事なものは全て抱えて寝る始末。初日からろくに眠れず参ってしまいました。翌朝は眠い眼を擦りながら、少し早めに行こうとセミナー会場に着いたら、大城さんと川嶋先生が準備しておられて、こんなに早くから我々のためにして下さっているのだと心から頭が下がる思いでした。続々とセミナー参加者が増え、100 人以上の参加者に椅子が足りないほどでした。大村教授のご挨拶で学会が始まりましたが、すべて英語の世界。世界各国の研究者の発表はエネルギーに満ち圧倒されました。必死にヒアリングをしても内容はとても聞き取れず、いい英語の勉強と思い、知らない単語を書き出していったら、4 日間で 200 語以上あり、これでは理解できないはずだと、次回の国際学会までには勉強しておこうと決意いたしました。私の発表は 3 日目で早く来ないかとハラハラしていましたが、最初の日本人の発表は脳外科の野本先生でご発表のあと質問が相次ぎ、私自身がドキドキしてしまいました。2 日目の朝はパソコンの画面にインターネット電話で下津浦先生の顔を拝することが出来、一安心しました。日本は夜の 10 時位なので、時間外に申し訳ない気持ちになり、地球の裏側から支えて下さっている下津浦先生にも感謝しました。こうなるとあとは発表を待つばかりです。イタリアやチェコ、スウェーデン、ブラジルと国際色豊かな先生方の発表は時間が押せ押せで、なかなか時間内に収まりませんが、発表の時間が近づくにつれて初めての New York、そして初めての外国での発表、初めての英語での発表に心臓の鼓動が高鳴るばかりでしたが、ふとセミナー会場の外に眼をやると何ともきれいな町並みに心が穏やかになった不思議な体験をしました。無事発表も終わり、質問もなく、終わってみるとあっけないものでした。今回は初めての New York なので、Ground zero と自由の女神、Central park だけは見ようとセミナーの日程をみると、朝の 9 時から夜の 9 時半までびっしりお勉強。1 日だけクルージングの日程が組まれていて、自由の女神は見られたので、あとは Ground zero と Central park。初めて見た Ground zero はすこしショックでした。まだまだ傷跡が残っていて、こんなに広い敷地に建っていたビルが崩壊したのだと言葉を失いました。花が飾ってあったり、勇敢に戦った消防隊員のポスターが貼ってあったりと 8 年経った今でもその痛々しい傷跡は残っていました。New Yorker 達はベグルとスターバックスのコーヒーを飲みながら、足早に会社に向かっていましたが、アメリカ社会の光と影を見た感じがしました。Central Park も散策しましたが黄金色の落ち葉が何とも絵になり、確かこんな映画があったなあとジョギングする方達に抜かれながら、犬の散歩をしている方達を飽きもせず眺めていました。4 日間も同じ釜の飯ではないですが、ご一緒させていただいていると日本からおみえになった先生方とも仲良くなり、こんな遠くまで余程の志がないと来られないと自分自身が感じていましたので、The Bi-Digital O-Ring Test 医学会の中に新しい風が吹き始めているんだなあと感じました。大村教授にはこれから先もご指導を頂きたい気持ちはありますが、いつまでも教わるばかりで何もお返しが出来ない自分を反省し、日本に帰ったら、ORT 友の会の皆様に The Bi-Digital O-Ring Test の一部でもいいから技術をお伝えしようと思ひ、セミナー開催の許可も戴き、今月より多くの方達に大村教授がどんな経緯でこの技術を開発なさったかをお伝えしようと思ひます。セミナーを通して大村教授がいかにか気を配られ、この学会が成り立っているかを間近で感じ、私などは何の役にも立ちませんが、少しでもこの学会の存在がより多くの先生に伝わり、一人でも多くの方がこの技術で救われることのために努力したいと思ひます。セミナー開催にあたり、いつも縁の下の力持ち

の大城さんや川嶋先生、ORT 生命科学研究soの方達のお力添えに感謝いたします。そして毎月康済会病院で研修して下さる下津浦先生には、いつもやさしく丁寧にご指導を頂き、感謝の気持ちで一杯でございます。最後の夜はヒーラーの龍村和子先生にご馳走になり、「せっかくの New York もっと楽しんでもらいたかった。」との言葉を戴き、またこの New York の学会で学びたいと思いました。初めての体験ばかりでしたが、The Bi-Digital O-Ring Test の聖地とも言える地を肌で感じ、日本では味わえない大学の雰囲気、医学会の雰囲気、New York の町並み、すっかり気に入って、また伺えたらいいと夢に描いてしまいました。New York で知り合った先生方も私にとってはとても大きな財産で、いろいろな専門分野のご指導を頂きながら切磋琢磨していきたいと思ひます。



## 2. 七沢久子先生（七沢歯科医院・院長、山梨県）

10月31日から11月3日までの4日間にわたり、25th International Symposium on Acupuncture Electro-therapeutics and Related Fields(第25回 国際鍼・電気治療学会、第9回バイ・デジタルオーリング国際シンポジウム)の記念すべき学会に参加させていただき、大変感激しております。ニューヨークのマンハッタンのコロンビア大学は、キャンパスも、すばらしく、ロダンの考える人の像や、ヘンリームーアの像も、置かれていました。

緑の木々に囲まれ、黄色に色づいた紅葉した樹木も、キャンパスを引き立てていました。

会場は、展望の良い School of Public & International Affairs の15階で開催され、午前9時から午後9時までという長時間にわたる内容の濃い充実した学会でした。本当に国際的な学会で、参加された先生方は、アメリカ、イタリア、トルコのイスタンブール、ブラジルなど、各国の著名な大学教授の先生方や、臨床医の先生方で、会場は満席でした。日本からも、前田華郎先生をはじめ、大勢ご参加されておりました。今回は日本とアメリカの中継をされていまして、日本から、下津浦先生の演題発表や、藤井佳朗先生の発表も、コロンビア大学の会場内で、拝見させていただき感激いたしました。映像もとても、鮮明で、肉声もよく聞こえまして、時代とともに、メカニズムの発展をすばらしく思ひました。また、大村恵昭先生のご講演を、直接身近でお聞きすることで、今までの私自身の勉強してきたことの再確認ができ、これが一番の収穫と感じております。日頃より、ABC Treatment と True ST.36 (足の三里) の療法は実践させていただいております。

今回は私自身の演題『副交感神経優位の情緒語について』も発表する幸運をいただき、大変有難く感謝申し上げます。発表後、多くの先生方から「クラムを用いた爪もみ療法」の質問があり、関心の深さに驚きと同時に、感慨ひとしおでした。また、いまい内科クリニック院長の今井浩之先生の講演内容が、ORT友の会会報 2008、Vol.15 に、言霊に関しても、「ありがとう」「今日もいっぱい働いた!!」というと、アセチルコリンとテロメアが上がり、そして「あー疲れた」というと、アセチルコリンとテロメアが下がるに掲載されておりました。まさに、私も、これに関して、今回、曼茶羅図にまとめて、O-リングの強い言葉、弱い言葉として、分類してみました。

まず、交感神経と副交感神経の分布と作用をのべ、それを、体感性と情緒性の構造と感覚でまとめました。手にある身体反射場の位置の図を提示し、体性—自律神経反射療法として、独自で開発したクラム(特許取得済み)による手の刺激方法を写真で、みせました。皇帝内径の七感情を提示し、感情表現の情緒語を分類しました。それに基づき、交感神経・副交感神経優位の情緒語を曼茶羅図にいれました。日常臨床での、副交感神経優位の情緒語 すなわち、喜(よろこぶ)安(やすんず)好(このむ)を日常表現として掲載いたしました。今回、これを発表できましたことは、今までの経験したことの、確認をいただけたと感謝しております。

参加された先生方との心温まる交流もでき、貴重な経験をさせていただき、本当にこの大会に参加できてよかったですと思ひました。日頃から、『いい言葉が、いい人生をつくる』ことを、実践しており、『百事楽嘉辰』(すべてのことが、楽しくめでたいことにつながる)を指針としております。いろいろご配慮いただきました大村恵昭先生はじめ、大城素先生、川嶋洋士先生や 関係各位の方々から心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



発表後、七沢先生に質問する参加者



参加者の記念撮影（最終日）

### 3. ニューヨーク国際学会に参加、発表をして 丸山 源司先生（丸山鍼灸科、三重県）

2010年10月31日から11月3日までニューヨークコロンビア大学で第25回国際学会が行われた。10月30日、セントレア中部国際空港を飛び立ち、成田国際空港で乗り換えニューヨークケネディ国際空港まで12時間のフライトであったが、意外に疲れはなかった。日本を30日に発ち同日の30日に到着したので何か少し変な気がした。市内へのアクセスは何を利用しようかと迷ったが、結局イエローキャブを利用、約1時間のドライブで料金は45ドルだった。宿舎のHoliday Inn Midtown 57<sup>th</sup> STには午後4時頃には到着、1時間程休憩し、宿泊が同じホテルであった協会会員の野本ドクター、当院のスタッフで共同研究者の田中と共に食事に出かけた。セントラルパークのすぐ近くのブロードウェイ沿いのレストランに入ったが、3人とも肉食主義なので肉の入っていないものを探すのに苦労した。魚なら3人ともそれほど問題はないので、ツナの入った野菜サンドイッチ（これがどでかい）にし、店内が混雑していたのでテイクアウト、野本ドクターの部屋で食べることになった。野本ドクターは、現役のバリバリの脳外科医でありながら、気の世界や霊的なことまで多方面の豊富な知識を持ち、我々3人は大いに気が合い遅くまで話し込んだ。というわけで初日はとても楽しかったが、2日目からは朝9時から夜9時まで学会で英語漬け、しかも専門用語、大丈夫かなと思いつつ寝た。ニューヨーク2日目、学会初日の10月31日。朝から晴天で少し寒かったがとてもいい日で、11月1日は200万人の観衆で3万8千人のランナーが参加するというニューヨークマラソンの前日で、朝からちらほらトレーニングをしている人たちを見かけた。コロンビア大学へのアクセスは地下鉄を利用することにし、野本ドクター、丸山、田中の3人でセントラルパークの近くの59<sup>th</sup>,ST 駅からコロンビア大学のある116<sup>th</sup>,ST Columbia University Station 駅まで乗車しようとしたら、116<sup>th</sup>,ST に向かうホームは工事中で「列車は止まらない」との表示。○駅、○駅・・・は工事中との表示だけで他の案内は一切無い。少々右往左往しつつ、反対側のホームから駅を2つほど戻り、折り返して116<sup>th</sup>,ST へ向かった。大学の正門は地下鉄の駅を出たすぐ前のブロードウェイに面しており、とても便利で、以後学会の終わるまで地下鉄を利用した。大学の正門を入ると広い石畳のメインストリートが大学の反対側の通りまで突き抜けていて、その両側に校舎が建ち並んでいる。メインストリートの中程にはコロンビア大学名物のLow Memorial Library と呼ばれる図書館がある。歴史を感じさせる立派な建物だ。私たちがこの前で記念撮影をした。





Colombia University



Low Memorial Library

International Affairs

コロンビア大学は 1754 年に創立されていて、アメリカ建国より古く、250 年の歴史を持つ。キャンパスのいたる所に歴史を感じさせる古い建物があり、重厚な雰囲気醸し出している。今回の国際学会の会場は、International Affairs という建物の最上階の 15 階で行われた。会場の窓からはニューヨークの市街が一望できるすばらしい場所だ。参加者はほとんどが医師と歯科医で、他は薬剤師、看護師、獣医師、鍼灸師といった顔ぶれ。デンマーク、オーストリア、ドイツ、イタリア、トルコ、中国、韓国、ブラジル、アメリカそして日本など、世界中から参加があり、約 40 人の発表があった。日本からは 12~13 名の参加があり、5 名が発表した。内容的には、バイデジタル O-リングテストを応用した医学的研究や東洋医学の漢方薬、鍼灸に関する研究であり、面白い発表では音楽や音の身体への影響に関する研究、野本ドクターの「活赤」という軟膏で手の大きな疣が取れテロメアにまで影響するという研究、犬や猫に鍼をするという獣医鍼灸の研究などがあった。これは余談だが、この「活赤」という軟膏を日本に帰ってから患者さんに試してみたら、ツボや脊柱のある部分に塗ると、肩関節や股関節の動きが柔らかくなったり、アトピーの患者さんのかゆいところに塗ると一時的にかゆみがとれたり、関節の炎症が激しい部分に塗ると痛みが和らいだりとなったりした。その他に私たちの注意を引いた発表は、インド人医師でニューヨークの New York Medical College で教えている Dr Harsha Duvvi の“Reduction of Intractable Brainstem Tumor”で、手に負えないほどの脳腫瘍が O-Ring Test を応用した統合的治療で縮小したという内容だが、DNA、原子、エネルギー、光、さらにマイクロでは無になるといった、物のレベルからエネルギーそして空の世界へという人間存在の本質まで説いており、さすがインド人だと感心させられた。仏教徒の多い私たち日本人にはそれほど違和感がないが、物的世界観の強い欧米人には理解しにくいのではないかと思われた。前日、昼休みにコロンビア大学前のブロードウェイ通りに面しているレストランで食事をしているときたまたま隣り合わせになり、大いに話が合い、楽しい一時を過ごした人だった。まだ 40 代と思われるが、表情もよく好感の持てる人で、もう一度あの話が聴きたく、連絡を取ろうと思う。



ところで私の発表は、Long-term Evaluation of Acupuncture and Moxibustion Treatment of Chronic Articular Rheumatism by Measuring Uric Acid,  $\beta$ -Estradiol, and Estrogen receptor etc. by using Bi-Digital O-Ring Test. (慢性関節リウマチの BDORT を用いた鍼灸治療からみた、免疫、尿酸、及び  $\beta$ -

エストラジオール、エストロゲン受容体に関する考察)

であり、25年間も患っていたリウマチがドラマティックに回復した症例をもとに書いた小論文である。発表にあたっては、抄録をニューヨークの大村先生に提出し、許可をいただいた。半年間、わずか15回の治療ではあるが、効果ははっきり出ており、この患者さんが提供してくれた現在までの10年以上の血液検査のデータ、私たちのBDORTの測定結果の数値が、症状の変化と一致している。発表では、リウマチの痛みと関節に溜った尿酸による痛みとの関係（血清尿酸とは必ずしも一致しない）、自己免疫疾患であるリウマチの評価の目安としての免疫物質(IFN- $\alpha$ , $\gamma$ , IL-6, IL-10)の動きについて述べた。また、女性ホルモンの $\beta$ -エストラジオールと尿酸の再吸収に関して、 $\beta$ -エストラジオールと受容体との関係、さらに受容体とその遺伝子、尿酸の生成や再吸収に関わる遺伝子との関係についても述べた。これらに鍼灸治療が大きな影響を与えており、さらにDNAにまで影響を及ぼす鍼灸の経穴も発見し、治療効果が上がっていることを報告した。帰り際に大村先生に一言「お前の英語はひどいな」と言われがっかりしたが、内容には興味と理解を示してくれたように思う。資料を送れと言われたので、面目躍如といったところである。

今回のニューヨークは、4日間の学会でMorning Session, Afternoon Session, Evening Sessionと有り、朝9時から夜9時まで英語漬けで、とても大変だった。少し救われたのが、日本と違い意外と時間にルーズなことだった。それと2日目の夜、学会が終わってからのハドソン川のナイトクルーズ。約1時間半船上からニューヨークを観ることができた。とても寒かったのだが、デッキに出て外を眺めていた。ライトアップされた自由の女神像を巡り元の栈橋に戻ったのは10時を過ぎていた。ニューヨークの真上に出ていた月がとってもきれいだったのが印象に残った。



今回国際学会に参加して、Bi-digital O-ring Test を利用している世界の医師たちがどんなことに関心を持っているのか、知ることができ、幅広い医療分野での研究発表はとても参考になった。また、世界中から集まったいろいろな人たちと知り合いになれた。世界の多くの場所で医師たちが鍼灸に興味を持ち研究と実践をしていることが分かり、鍼灸師として本当に嬉しかった。ただ残念なのは、中国流の太く長い鍼を用いた鍼術が多く、日本のような細い鍼での微細な刺激を用いたデリケートな鍼術があまり知られていないことだった。日本の鍼をもっと知ってもらうためにも、もっと英語を勉強して、このような機会があれば発表しようと思っている。

最後に、このような発表の機会を与えてくださった大村教授に心より感謝を申し上げます。

#### 4. 磯部知己 先生 (デンタルライフクリニック、神奈川県)

2009年10月31日(土)から4日間、第25回 国際鍼・治療学会に今回、初めて参加させていただきました。10年ぶりに行くNYに胸を躍らせながら、少し早めに木曜日に成田を出発しました。約13時間飛行機に揺られ、JFK空港に到着し入国を待ちますが、噂の如くかなり審査は厳しく、両手10本の指紋と、顔写真の撮影に時間が掛っている様で、2時間程かかりました。睡眠不足と疲労でフラフラになり、最近のアメリカの入国はかなりの覚悟が必要だと痛感しました。一人で行ったこともあり、先を急ぐこともなかったので、エアトレインと地下鉄を乗り継いで、マンハッタンのダウントウンへ向かいました。以前来た時と比べて、駅や電車の落書きも殆ど消され、安全になったような雰囲気がします。1時間半位かかりましたが、7ドルで行けるのが魅力です。時節は大変に良く、暑からず、少し寒いくらいの爽やかな天気が心地良く感じました。ハロウィーンの装飾もなかなか趣があり、本場アメリカに来たという実感が湧きました。金曜日はセントラルパークを散策した後、アメリカ自然歴史博物館やメトロポリタン美術館へ行きゆっくりと展示を鑑賞しました。日本とは全くスケールが違い大変に広いので2か所を見るのに丸一日かかります。モネ、ローザンヌ、シャガール、ゴッホ、ピカソ、フェルメール、レンブラント等々著名な画家の作品がずらり並び、当日は特にフェルメールの特集が組まれていたにもかかわらず、特別に混雑することもなく作品を間近に目にするので感動しました。これは決して

日本でかなわぬ事と思います。日本の刀、兜のコレクションが大変豊富で、アメリカの地で新たに日本の歴史文化の勉強を致しました。コロンビア大学はセントラルパークの北西の高台に位置し、都会にありながらその喧騒から離れ、学際的雰囲気を持つ、素晴らしい所です。大村先生は学会場に来られると、クラミジア・トリコモナスに感染している人が多いといわれ、保菌量の多い方の手にゴダニウムという新たに開発された金属を貼られ治療をされていました。これは最近のトピックスだそうです。始めの講演では、テロメアについては詳しく解説されました。一般的に多くの研究者は、細胞のテロメア量は変化しないと考えていますが、衣食住を取り巻く多くの物に影響を受けて、劇的に変化することを強調されていました。さらに、アスベストの汚染についても述べられ、アーモンド、生姜などが良くないと言われ、特にアーモンドの汚染が著しいとの発表には驚かされました。大村先生はまた、ご自身の眉毛の部分的な白色化を取り上げて、白髪化された領域臓器の異常化について解説されました。鼻翼側方、下唇下面にも臓器代表領域があることもお話され興味深く拝聴いたしました。最も印象的だったのは、手・足・口を使って患者に文字を書かせ、テロメア、アスベストの量を、BDORT を用いて調べ、ガン、アルツハイマー等の診断を行うというものです。非常にスピーディーに病変部位を推定できるので有用であると言われました。推定された部位にサンプルを用いて詳細に診断して行く方法です。日本のみならず、諸外国の先生方の熱意には相当なもので、実習ともなると食い入るように見学されていました。とくにアメリカの歯科医師の方々は、咬合、歯周病、TMJ と多岐にわたる発表が行われ大いに参考になりました。メキシコでは、国民の約60%がメタボリックシンドロームにて生活習慣病予備軍であり、その改善に鍼灸が非常に有効であると報告されました。チェコでは、公的な病院が、ホメオパシー、EAV、鍼灸を使い、脳疾患（腫瘍、神経障害、精神疾患など）の患者に応用しているというのも興味深い内容でした。また、デンマークでは偏頭痛に悩む方が、非常に多く、西洋医学的治療で改善せず、東洋医学的アプローチ、特に鍼灸を用いて改善に至ったケースが多数あると報告されました。大村先生は偏頭痛の要因として、ヘルペス・シンプレックスの感染、アスベストの蓄積が大きく関与しているとコメントされました。3日目の夜には皆様と、ハドソン川を下りつつマンハッタン島をぐるり半周程するナイトクルーズに出かけました。それまでの学会期間中の曇天とは打って変わって、雲一つない星のきらめく夜空と、満月に浮かび上がる自由の女神を見たときの感激は今も忘れません。輝く摩天楼を見つつNYを満喫いたしました。無事に4日間の学会を終え、2日ほど余裕を持って観光を致しました。NYを少し離れ、ニュージャージー・トランジットという私鉄に乗ってニュージャージー州を観光いたしました。グランドセントラル駅から1.5時間程行ったトレントンという町に下車しましたが、NYとは全く違う人もまばらで自然にあふれるアメリカらしさが存在します。気になったのは、車窓から見える工場のほとんどが閉鎖されており経済状況の厳しさを目の当たりに致しました。時間があり、鉄道に興味がある方は、アムトラックという鉄道（日本の新幹線に相当する）に乗れば2時間程でワシントンやボストンへもいけるので観光もさらに楽しくなるのでお勧めいたします。帰りも地下鉄で帰りましたが、途中で地下鉄が止まり（インフォメーション無く当日突然始まった工事のため）、帰国便に間に合わなくなりそうになり大変な思いをしました。たまたまタクシーが来て、かなり急いで走ってもらったので間に合いましたが間一髪でした。帰りはやはりリムジンか、タクシーが安全かと思います。学会運営に当たり、細部にわたり御配慮いただいた大村先生を始め、0-リングテスト協会のスタッフの皆様方に深く感謝いたします。どうもありがとうございました。



## 5. NY 国際学会に参加して 矢崎智子（クリニックハイジーア院長、東京都）

私は今年学会員になったばかりの初心者ですが、国際学会の開催場所がコロンビア大学最後の年ということで、参加させていただきました。まず私と O-リングテストの出会いですが、漢方治療を行っている父が 10 年以上前からとり入れていたことで、O-リングテストは知っており、私自身も O-リングテストで助けられた経験があります。大学病院で勤務医をしていた時（10 年近く前）、倦怠感、リンパ節の腫れという症状が出たことがありました。最初は風邪だろうと思っていましたが、手足に発疹がでてきたので、何らかのウイルス感染ではないかということで自宅療養をすることになりました。ウイルス抗体価を調べましたが、結果が出るのは 2 週間後ですし、何のウイルスかわかったとしても現代医学的には治療法がありませんから、何をしてもなくただ寝ているだけでした。そのうちに体調がどんどん悪化し、ある日強烈な全身倦怠感と吐き気で、一人自宅でぐったりとソファーに倒れこんだまま、動けなくなってしまいました。そんな時、「虫が知らせた」といって両親が田舎（長野県）からやってきて、O-リングテストで漢方薬を診て、漢方薬を飲ませてくれたのです。それはエキス剤の桂枝湯でしたが、1 袋飲んだとたん、それまで鎖で縛りつけられたかのように一步も動けずトイレにも行けなかったのが、すっと立ち上がり、トイレに行きました。そして少しでも動いたら吐きそうだったのが、胃の中のものがすっと落ちたかのように気持ち悪さがすっきりとなくなり、食事をとることができたのです。もちろんその一服だけで完治したわけではなく、その後も漢方治療を続けましたが、これにはとても驚きました。O-リングテストと漢方の素晴らしさを、身をもって感じた経験でした。2 週間後にウイルス抗体検査の結果がでましたが、伝染性紅斑、リンゴ病でした。そんなことがあり、O-リングテストの素晴らしさは体験済みだったのですが、いろいろな治療法を模索する中で、自分自身が診療に取り入れようと思うまでには時間がかかり、今年ようやく入会させていただいたというわけです。さて NY の学会ですが、日本を出る前から風邪を引いており、残念ながら体調は万全とは言えませんでした。しかしながら各国の先生方のご発表は興味深く、O-リングテストを使って真実を知り、病気を治したいという気持ちに国境は関係ないのだな、と感じました。そして、学会の内容もさることながら、私にとってとても勉強になったのは、あまりにも私の体調が悪かったために、見かねた参加者の先生方がいろいろな治療を施してくださったことでした。当然ながら、代替療法には一家言ある先生方ばかりです。皆様がそれぞれ得意とする、漢方薬やホメオパシーのレメディ、ツボの指圧、温熱器による温熱療法など、至れり尽くせりの治療をしていただきました。その際に先生方のご経験や独自の考え方を知ることができ、とても勉強になりました。その中でも一番効果を感じたのは、講義で大村先生が気を入れてくださった紙です。夜になると胸が焼けつくように痛み、咳込んで眠れず、とてもつらかったのですが、その紙を胸に当ててみると、とても楽になり、咳が減って、よく眠れました。これも初めての体験だったので、新鮮な驚きでした。O-リングテストの世界は奥が深く、私にはまだわからないことだらけですが、地道に勉強させていただき、患者様に還元できればと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## # 2009年7月 朝日町病院 総合診療科報告

富山県朝日町立朝日町病院総合診療科に、前任の赤堀英明先生の退職後、新しく藤原良太先生が就任され、オーリングテストによる診療が行われています。



2009年7月18日（土）に富山県朝日町にあるアゼリアホールで、オーリングテスト創始者の大村恵昭先生の故郷における里帰り講演としての町民公開講座が開催されました。当日はあいにくの雨で、参加して下さる方が減るのではないかと危惧がありましたが、町の職員さん方も参加して下さったこともあり、300人を超える人たちに集まってもらうことができました（350人収容できるホールがほぼ満席でした）。発表は小杉先生と大村先生のお二人。司会は朝日町立病院の総合診療科に新しく勤務していただいた藤原良太先生に進行していただきました。特にオーリングテストの実習では飲料をチェックしたのですが、会場中から「へー、うわー」などご自身がよく飲まれているものがでていたのか、皆さん熱心に聞いていただきました。



大村恵昭教授の弟さんの大村侃司さんと大村恵昭教授の娘さんの Vivian さんとその御主人の Dr. Abdullah Nihrane の挨拶がありました。

## # 2009年7月 富山セミナー報告

2009年7月18日(土)と19日(日)の2日間富山県朝日町セミナーが開催されました。朝日町は、大村恵昭教授の故郷で、きれいな海水浴場・山・川と温泉や歴史的遺跡、博物館等19もの観光名所があります。今回は、「癌とアルツハイマーその他難病の短時間診断法」をテーマとして、講師としてはニューヨークの大村恵昭教授以外に、日本BDORT協会副会長下津浦康裕先生、第19回日本バイ・デジタルO-リングテスト医学会会長出口一樹先生、その他多数の先生方により診療に役立つ講演と実技講習をしていただきました。宿泊場所は最近有名になった山と川に面した山の元湯温泉でした。セミナー参加者は43人と医学会を終えられたばかりの時期としては多く、先生方の勉強への熱意は感服してしまうほどです。会場はアゼリアホールと公立病院として、初めてO-リングテストの総合診療科を設立した朝日町町立病院とで行われました。



内容はBDORTの基本から、富山県朝日町にちなんだ温泉水の健康に対する有用性、大村先生曰く「今まで行った世界中の温泉水としては最高のもので、テロメアを上げることのできる水として



ではこれほど沸いて出ているものであれば効率が良い。」とのことでした。小川温泉の元湯は100ml 飲用で300ng 上昇、200mlで600ng 増えました。入浴する

と275ng 上昇し850ng まで上昇しました。しかし、時間経過と共に減少し、翌朝には600ng 弱となりました。また、秘境黒部は100mlで300ngもアップしました。長寿日本一の沖縄県では、一万人あたりの100歳以上は6.1人ですが、水の効果か朝日町は1万人あたりの100歳以上は9人と多くおられます。しかし、意外なことに朝日町の最高齢は103歳です。これだけの素晴らしい水があり、環境の良いところであるにもかかわらず、103歳以上のおられません。「温泉に入っても飲んででもテロメアが上昇する温泉があるのに103歳までの人しかおらず、長寿としてこの辺りが有名でないのはおかしい。何か阻害する要因があるのだろう。ぜひ検討しなければ。」と変わらず研究熱心で、参加の先生方も触発されていたようでした。



朝日総合病院の前で、富山セミナー参加者の記念撮影

大村恵昭教授の温泉で、テロメアが上昇するという発表があった日の夜は、参加者の先生方が、温泉に入る前後や温泉の湯を飲む前後で、テロメアを測定してもらったりして、温泉にはいりながら交流を深めていらっしゃいました。

## オーリングの輪

2009年に工藤 真幸先生(まさき歯科・小児歯科、北海道札幌市)と福田 徳治先生 (福田歯科クリニック、東京都)が新しく、歯科の認定医になられましたので、紹介致します。



工藤 真幸先生(まさき歯科、北海道札幌市) 福田 徳治先生 (福田歯科クリニック、東京都)

### 1. 日本バイ・デジタルオーリングテスト協会認定歯科医になって

福田 徳治(福田歯科クリニック、東京都)

平成 21 年 4 月下旬、九州 久留米にて 1 週間のオーリング講習会の最終日に認定試験が実施された。約 12 時間に及ぶ大変厳しい試験だったが、大村教授はじめスタッフの皆様親切なご指導を頂き、誠に貴重な勉強が出来ましたこと心より感謝いたしております。オーリングの会員歴は 8~9 年になるが、初期の未熟な手つきながらオーリングで作成した義歯を入れたら、つかまり歩きしていた要介護者がしっかりと歩き出し非常に感動した。それ以来、寝たきり老人を何人も歩かせたり、かなりの不定愁訴を持つ人をオーリングで噛み合せを調整して治したり、現在では殆んどすべての歯科治療にオーリングを用いて患者共々、感動の歯科医人生を送っている。オーリングには感謝・感謝である。

医療法人社団 皓永会 福田歯科医院

(東京医科歯科大学歯学部講師・NPO 法人障害健康ネットワーク指導医・日本バイ・デジタル O-リングテスト協会認定歯科医師・日本顎咬合学会認定医・歯学博士・介護支援専門員)

〒125-0041 東京都葛飾区東金町 3-1-5 診療所電話 03-3607-8046 自宅電話 03-36002807  
FAX03-3607-0945 ホームページ URL : <http://www.fukuda-sika.com/> e-mail :

[air@zephyr.dti.ne.jp](mailto:air@zephyr.dti.ne.jp)

### 2. まさき歯科・小児歯科の紹介

工藤 真幸先生(まさき歯科・小児歯科、北海道札幌市)

〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 3 丁目ラ・クラッセ札幌ステーションフロント 1F JR 札幌駅・北出口徒歩 3 分

電話:(011)756-4118 FAX:(011)756-4120 HP: <http://www.4118.net/>

診療時間:月曜日~金曜日午前 9:00 ~ 午後 7:00 土曜日午前 9:00 ~ 午後 5:00 日曜

日・祝祭日 休診

診療内容 小児歯科・障害者歯科 (こどもの頃からのケアが大切です。虫歯や歯周病のない健康なお口と体を育てます。) 歯周病治療・予防(今からでも遅くありません。生活習慣病である歯周病の予防にはメンテナンスが一番です。) 補綴歯科治療 (かみ合わせは健康の鍵です。)

※ アトピーやアレルギーのある場合、歯科の材料や薬の使用には注意が必要です。最近では金属だけでなくプラスチックなど他の材料にも過敏な人が増えてきています。そこで当院では診療前にオーリングテストで使用できる材料をチェックし、選択します。材料が体に合わない場合、中国パセリの服用により症状が改善されることもあります。障害をもつお子さんと暴れて歯科治療がうまくできない場合には、フラワーレメディ(アロマセラピーのようなもの)をオーリングテストで選んで利用します。すると不思議と子供が落ち着いて、簡単な歯科処置ができるようになり大変重宝しています。

※工藤 真幸先生は北海道大学歯学部小児歯科学講座助手時代に以下のような論文を多数書かれています。(論文:ダウン症候群児の歯周疾患発症における細胞接着因子の役割、本学歯学部附属病院



小児歯科外来における乳臼歯埋伏についての臨床的考察、etc.)

### 3. 清里にて、開業しました。 堀内 信子 先生 (新橋デンタルクリニック、東京都新橋)

新橋で開業して、7年。情報量はものすごく多いのですが、何か、それに振り回されそうな感じがしてました。

九州歯科大学を卒業後、東京医科歯科大学、九州大学、国立小児病院 (現、国立成育医療センター)、北九州市立総合療育センター、聖マリア病院 (久留米、この時に O-リングと出会いました)、山口県下関で父の後を継いで開業、福原矯正歯科クリニック (大田区) 勤務、そして7年前にこの新橋に来ました。

兎に角、西に東に、と動いてばかりですが、今度は北上して清里です。

月～金 は新橋にいますが、土、日 は清里で診療しています。

元々、休みは月に1日あればいい位いろいろなことをしていましたので、土曜日の夜に空気と水のきれいなところで、キッチリ確実に休めるというのは体にとってもいいようです。



生まれてすぐに、登録こそしていませんが、森永砒素ミルク中毒にかかり、交通事故で顔にフロントガラスがグサグサ刺さり、プールで溺れてあっち(?)に行きかけ、、、、と、いろいろなことがあったのですが、お蔭様で何とか元気で暮らせています。ただ、昔かかった小児喘息や、砒素ミルクの後遺症なのか、元々のアレルギー体質なのか、都会のみでの生活だとこれからの自分の健康がやや心配になってきました。(早い話が、年なのです)。



そこで、仕事さえしていれば一番幸せな私としては、「谷」に居て『俗人』の生活だけでなく、「山」に入って少し『仙人』体験しながら仕事をしたいと思うようになり、海拔 1000 メートルを探して、清里に行き着いたのです。

海拔 4000 メートルの、マチュピチュやチベットは結構苦しかったのですが、1000 メートルは、とてもとても快適です！体全体が素直に O-リング反応をする感じですね。

お近くにいらしたら、お寄りください。 但し、土、日ですよ。

〒407-0301

山梨県北杜市高根町清里 3565-5

(国道 141 号清里ライン三軒屋バス停傍)

デンタルクリニック清里

T/ 0551-20-8035

F/ 0551-48-2853

堀内信子

## O-リングテスト創始者大村恵昭教授のニューヨークにおける最近の研究について

O-リングテストで患者さんを診察する時に、正常細胞のテロメアを測定します。正常細胞のテロメアが異常に低い (1 yg( $10^{-24}$ g)或いはそれ以下の場合) 時は、以下の可能性を考えます。

1. ガンまたは、他の悪性腫瘍が体のどこかに存在する。Integrin  $\alpha 5\beta 1$  或いは Oncogene C-fos Ab2 が 10ng BDORT Units 以上あれば、ガン細胞がある。80ng 以下の場合、スタンダードの検査ではほとんど見つからないが、そのままにしておくと数カ月ないし数年後に異常が見つかることが多い。
2. 心臓血管系の病気がある。Cardiac Troponin I が正常値の 2ng 以下から 5ng BDORT Units 或いはそれ以上に増えていて、心臓のどこかに異常があり、心電図に異常が出るが、異常がないというリポートが出て、O-リングテストで調べると異常が見つかる事が多い。
3. Autism(in Children's)や Alzheimer's Disease (in Adults) にかかっている。もし  $\beta$ -Amyloid(1-42)が正常の 2ng 以下より 5ng から 7ng 或いは 7ng 以上に増え、Acetylcholine が 0.1  $\mu$ g BDORT Units 以下に減少し、特に Hg, Al 等の金属及びアスベストが異常に増えている。
4. Depression や Irritability がある。Serotonin と GABA が非常に減少し、5  $\mu$ g 以下 (特に 1 $\mu$ g 以下) になっている。
5. 感染症にかかっている。日本やアメリカでは大人の 65%以上がクラミジア・トラコマティスに感染している。サイトメガロウイルス、結核や *Borrelia Burgdorferi* に感染している人も多い。
6. 電磁波に曝露されている。(電磁波をプロテクトしない携帯電話や職場が電磁波を発生する電気機器で囲まれている。) 電磁波の影響で健康を害することは聞いたことがある方もいると思いますが薬などの効果を減退させたり悪くしたりすることはあまり知られていません。特に携帯電話などは高周波の電磁波のため脳などに強く影響することも以前から警告しています。紹介している私の見つけたニュートライザーはその影響を軽減させることができます。
7. O-リングテストでマイナスの衣類やアクセサリを身につけている。下着、ブラジャー、ソックス、パンティー等や時計、イヤリングや口紅、シャンプー等の化粧品類 O-リングテストでプラスのものを探して、身につけるようにすることが大切です。O-リングテストで、できるだけ肌にふれる部分がプラスになる衣類を身につけ、O-リングテストマイナスのシャンプーやリンスしかない場合は、O-リングテストプラスの石鹸で洗うようにして身を守って下さい。
8. O-リングテストでマイナスのものを食べたり、飲んだりしている場合 嗜好品のタバコ、お酒 (50~100cc 以上)、などはもちろんのこと、とうがらし等の刺激物、人口甘味料の入った飲料などなど上げれば数多くありますが O-リングテストマイナスのものは特に口にしないようにしなければなりません。

ん。人工甘味料のアスパルテームを使用した飲み物を飲み続けると、脳のアセチルコリンが低下して、脳の機能に障害をもたらしてしまいます。最近では、患者さんが飲んでいる水にアスベストやヒ素、鉛等がはいっている場合が多いので、水道水と買って飲んでいる水を持ってきてもらい、チェックします。(※水や飲み物を調べる時、飲み物を人差し指でさしてO-リングテストがOKでも、中指でさしてO-リングが開くことがあります。脳の臓器代表領域が集中している中指でさして開くということは、脳に対してよくないものが含まれている可能性があるかと判断します。(アスベスト等)。) アスベストがはいっていない水を飲んでもらうように指導しますし、特に、薬を飲む水は、薬の効果をキャンセルしないものを使用するように注意します。最近、アメリカでも日本でも店で売られているジュースやウーロン茶にメラニンが入ったものが増えている。効果をキャンセルまではしなくても、O-リングテストマイナスのものを食べた場合はその食べ物によりますが、例えばコーヒーなどはテロメアを下げる効果が数時間続き、その間は癌などのテロメアが上がり、薬の効果も減弱します。正常のテロメアを増やす食事としては、赤いリンゴ(※青いリンゴはそのままではテロメアを下げますが、煮て食べる場合はOK)、黄色いバナナ(※青いバナナはそのままではテロメアを下げますが、揚げて食べる場合はOK)、ゴーヤ(※中身の種が赤くなっているものは毒性がありますので、赤い部分は取り除きます。) 果物では、マンゴー(※黄色いマンゴーはテロメアを上げますが、青いマンゴーはテロメアを下げます)、パイナップル、パパイヤ等はテロメアを上げます。魚でサケ、マグロ、ウナギ等が効率よく正常細胞のテロメアを上げます。

9. 家庭や職場で有毒化学物質を吸い込んでいる(いろいろな蒸発し易い有機化学物質、アスベスト等)

10. 体を冷やすような環境に長時間いた

体を長時間冷やすとテロメアが下がってしまいますので、体を冷やさないようにすることが大切です。

これまで、**DHEA** や **Astragalus** といったサプリメントで正常のテロメアを上げる方法は紹介しましたが、キャンセルしてテロメアを下げる食べ物や飲み物が多いので、よほど注意しないとキャンセルされますが、生の **Bitter Melon** (ゴーヤ) を大人で **30~50g** を4時間おきに食べる方が、途中でキャンセルする食べ物や飲み物をとっても、すぐにテロメアを上げることができるので、一般の人には適していると思います。

O-リングテスト協会の認定医の施設で診察・治療してもらって、健康で長寿な生活を送られることを望みます。



## C O N T E N T S

オーリングテスト症例短報 下津浦内科医院	①
特集 第19回 日本バイ・デジタルオーリング	
テスト医学会	②
＜連載コラム＞オーリングテストのABC	⑦
＜連載＞仙人伝説	⑧
ニューヨーク国際学会体験記	⑩
富山セミナー報告	⑰
オーリングのわ	⑱
大村恵昭教授 最近の研究	㉑

発行先：〈日本バイ・デジタルオーリングテスト協会〉

〒830-0032 福岡県久留米市東町496東町ビル  
TEL 0942-38-4181 FAX 0942-37-4131